スタジオのホリゾントの上に立った男2人。よく撮られようとか、自己演出なんて、まるで意識なし。男には迫力が必要。世の男どもが弱体化してるのに、この2人の凄味ったらありゃしない。ニタニタ微笑みながら、すきあらば、いつでもグサリと刺しにかかる。やさしさ、狂気、妄執、絶望がまじった矛盾体。でも、それがこのうえなく魅力的に見えるのだから、相当な「ワル」に違いない。真昼の放談、彼らが喋り出したら、もう誰にも止められない。

山本　オヤジって言われても、まずオヤジってイメージがないからね。自分のことを考えても、自分では大人のつもりでいるし、まわりは気難しそうな人だとか言うんだけど、俺のことをよく知ってる人はガキ扱い。大人として扱ってくれないね。だから、不良少年が、大人になるかと思ったら年とっても不良のガキのままで(笑)。

北野　俺んちのオヤジは、名前も書けなくて、暴れてばっかしだった。家に帰ってきても、危ないのが戻ってきたっていうかねえ。話したことないし、飯なんて一緒に食ったのは1回もないんじゃないかな。

山本　オヤジは最初から、存在してなかったんですよ。自分がまだ1歳半の頃、戦争に連れてかれて、そのままいなくなったから、オヤジっていうのはいない。イメージもともとないんですよ。だから、母親と2人だけの生活。あの頃は、戦争未亡人っていうのが多かったな。

北野　テレビで『パパ大好き』とか見た時、とっても気に入らなくってね。なんだこりゃと思った。でもね、うちのオヤジなんて、普段は俺やおふくろとかぶん殴るのに、江の島行った時に、俺が外国人にハーシーズかなんかのチョコレート1個もらっただけなのに、電車んとこで正座して「ありがとうございました」とか謝ってんの見た時、あらぁ、アメリカは強えんだなあって(笑)。

山本　うちも、家庭だとか、家族だとか、そういう雰囲気は全く知らなかったなあ。

北野　戦後すぐのオヤジたちっていうのは、戦争行って人殺ししたことがあったりするわけでしょ。そんなやつを襲ったりなんて絶対思わないんだよね。それに、俺たちの子供の頃は、近所にヤクザがいて、俺たちは、ヤクザには絶対逆らわないし、それにそいつらが、みんなオヤジなんだよ(笑)。今の若い連中にとってみれば、オヤジ連中に対する「凶暴さ」とか「怖さ」の幻想なんてないね。で、しょうがないから出したって、「全共闘」ぐらいしか出せない。「俺たちは角材で殴り合った」とかね。オヤジ自体、体からいえば17や18歳の連中とまとも